

海津市まちづくり委員会「第7回安全・安心まちづくり検討分科会」会議録

開催年月日	平成23年10月7日(金)	
開催場所	海津市役所 海津庁舎 3階 委員会室	
分科会委員定数	17名	
開 会	午後1時30分	
閉 会	午後3時40分	
出席者	○分科会委員	
	公募市民	白 井 春 幸
	NPO 法人 セーフティホートコミュニティ平田	丹 羽 公 成
	南濃北部地区防犯パトロール隊顧問	藤 田 良 博
	海津地区交通安全協会会長	堀 田 行 雄
	海津地区防犯協会副会長	牧 野 光 子
	海津市自治連合会代表	宮 脇 信 幸
	海津市社会福祉協議会	水 谷 英 基
	総務課	神 田 勝 広
	福祉総務課	浅 野 貴 康
	学校教育課	宇 佐 美 伸 幸
	消防課	戸 島 正
	海津警察署 生活安全課長	有 井 隆
	岐阜経済大学教授	菊 本 舞
	○事務局 企画政策課 課長	中 島 哲 之
	〃 係長	徳 永 宗 哲
	〃 主任	毛 利 卓 司
欠 席 者	NPO 法人 海津おやじの会	樋 口 幸 二
	海津市更生保護女性会代表	中 島 雅 子
	高須生活学校代表	加 藤 佳 余 子
	公募市民	大 倉 金 次
会 議 次 第	1. あいさつ	
	2. 各団体間の連携を進めるために	
	3. グループ討議	
	4. 講評	
	5. 閉会	

会議録（要約）

事務局	<p>みなさんこんにちは。</p> <p>これより、海津市まちづくり委員会「第7回安全・安心まちづくり検討分科会」を開催させていただきます。</p> <p>会に先立ちまして、分科会長より一言ご挨拶をお願いします。</p>
会長	<p>（会長あいさつ）</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>本日は、各団体間の連携を進めるために菊本委員からお話を頂き、そのあとグループ討議を予定しております。</p> <p>菊本委員よろしくをお願いします。</p>
菊本委員	<p>（資料に基づき説明）</p>
菊本委員	<p>今日は連携をキーワードとしてグループディスカッションをしていただきます。</p> <p>それでははじめてください。</p> <p>（グループディスカッション）</p>
事務局	<p>お時間となりましたので、グループディスカッションはここまでとします。</p> <p>それでは発表をA班から始めてください。</p>
A班 A委員	<p>【A班】</p> <p>各種団体との連携を進めていくためにはということで、地区社協を利用して協議会を作るということです。構成組織としては、自治会長とか民生委員、福祉推進員を軸にして、育成会や学校の関係ではPTAなどが入って協議会を作るとなっています。</p> <p>もうひとつは安全安心まちづくり協議会を作るということです。範囲としては自治会単位では小さすぎるので、海津市の場合は10小学校区があるので小学校区でつくるのはどうでしょうか。</p> <p>構成メンバーとしては、テーマごとに防犯の関係ではその関係団体で構成し、子どもとか老人を対象とする場合は、老人クラブとか民生委員をなどで構成する。</p> <p>各種団体の連携を進めるためには、情報交換のために、情報誌を発行するとか、問題解決のために協議会で諮るとか。そのようなことをグループで話し合いました。</p>
菊本委員	<p>地区社協を利用した協議会と安全安心まちづくり協議会とは別物と考えていいのですね。</p>
A委員	<p>別物と考えていいです。</p>
菊本委員	<p>なるほど。でも両方とも小学校区をベースに地区社協をまたいでつくるということですね。こちらは防犯に限らずということですね。</p> <p>ありがとうございました。ではB班の方をお願いします。</p>

<p>B委員</p>	<p>【B班】</p> <p>防犯以外のいろいろな団体があるわけで、まずどんな団体があるか、連携をとるにしてもどう連携をとるかについて話し合いました。</p> <p>海津市全体でということだと単なる情報共有だけで終わりとなるので、やっぱり協議会を作るといっているのであれば、小学校区でどうかと思います。</p> <p>またボランティアで参加する方で意識の低い方をどう考えるかについて、もっとフォローをどのようにしていくかが課題です。</p> <p>狭い区域でいろいろな団体で組織していくのがいいのではないかと思います。話の中で地区の防犯パトロールについて話があったのですが、活動範囲を限定していて、違う地域の人についてはよくわからないといった事で、逆に不審者扱いされた。市民には、どの団体が、どのような活動をしているか知らしめないで理解が得られないと思いますので、市民への情報提供をしていくことも活動の一つだと思います。</p>
<p>菊本委員</p>	<p>ありがとうございました。皆さんの中でお互いの意見についてご質問やご意見はありますか。</p> <p>A班からは、防犯に限らず幅広く地域の人たちがつながり作り等の活動ができるために、地区社協等を活用して協議会を立ち上げてはどうかという提案がありました。それから同時にこの防犯に特定してくるような、かかわってくるような団体でつくる協議会も同じく小学校区で必要ではないか、という意見が上がって来ております。</p> <p>いただいた意見としては、そもそも連携を前提として、どういった団体組織との連携を求めていくのかと、市のレベルでやってもなかなか実効性が伴わないのではないかと、ということでこれはAB共通しているところです。それからこの防犯のまちづくりを考えるとどうしてもボランティアに依存せざるを得ないということで、ここにいらっしゃる方はそういう事に理解があり、熱心に取り組まれている方ですが、そうではない方が出てきている中で、どういった形でフォローをしていくか、あるいは参加を促していくのかということ。</p> <p>実際に取り組んでいる側からすると、情報の共有だけではなく、それに直接かかわってこない住民の方に、どのように認知を広めて深めていくかということが、あらためて連携をするうえで課題ではないか、と課題について提起されています。</p> <p>いままで二つの班で分かれていて、共通の意見というのが出ていなかったのですが、この小学校区単位が実効性が一番高いのではないかとというのが共通意見としてでてきます。一つの方向性が見えてきたのではないかと、私はこれを見て思っていますが、皆さんはどうでしょうか。</p> <p>足りない意見とか、あるいは他に意見は有りませんか。</p>
<p>A委員</p>	<p>安全安心に関係することからすると、ちょっと自治会単位では小さくてなかなか難しいと思います。福祉関係では自治会単位で行うのが一番望ましいと思うのですが、この安全安心では小学校区単位ぐらいで協議会を作って、個々の地域の実情に基づいて考えてもらう。防犯については小学校単位が一番いいのかなあと私は思う。</p>
<p>菊本委員</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>小学校区単位でかかわって、自治会単位では小さいだろうと。校区ごとでは重点的</p>

<p>C委員</p>	<p>に取り組むべき課題というのが、たとえば子供を重点的に取り組むのかあるいは、高齢者に重点的に取り組むのか、それから比較的暗がりの場所が多いとか、地域の特性や課題が異なっていくので、協議会の形としては校区単位が望ましいのだけれども、その中身としては校区ごとによって変わっていけばいいのだろうということですね。</p> <p>ほかに何か。</p> <p>A班の提案した地区社協の協議会というのは一番ベターだとも思います。地区社協と言ってもまだできて2年です。非常に広い範囲で活動していく中で、そこに安全安心が当然にあることですし、それからお年寄りの見守りとかも安全安心にかかわってくるのだと思いますけど、それでやっていった場合、地区社協のメンバーは福祉推進員や民生児童委員、自治会長、老人クラブの会長が役員に入っていますが、そういった人に、もしくはその団体をお願いするのが一番いい方法なんですけど、そこでB班のいわゆるどの程度意識としてあるかというのは非常に疑問があるわけです。</p> <p>今尾地区社協というのができて、何をしたいか模索しても、何をしたいか答えが出てこない。たとえば防犯について明確な意識をして細かい計画を立てて、そこにいる参加の自治会長さん方、民生の方、福祉推進員の方、老人クラブの方、その他関係団体、そこに足さなきゃならないのは、おちょぼさんと観光協会、商工会そういった所の役員さんも足さなきゃならないかとも思っています。</p> <p>一番B班で問題になったのは、ひと固まりで活動していて広がりが少ないということ。</p>
<p>A委員</p>	<p>協議会を立ち上げる時に、この地域はどういう課題があるかを話し合っ課題を見つければ、解決策もあるのだから。まずは地区ごとに課題を見つけないと。</p>
<p>菊本委員</p>	<p>ありがとうございました。特にこの分科会に出た事ですが、いかに市民の参加とか、地域での関係をどう作っていくか、最終的には、そういう意識のない人をどうフォローアップしていったらいいかということですよ。</p> <p>そのことが協議会を組織として作っていくこと、それはこれから提言書としてまとめて、市の方へ受け入れられて、市の方で作りましようとなるかもしれません。それはもちろん成ったら組織としてつくられるだろう。それをいかに形式的だけではなくて、実態的にやっていけるのか、ということまでを踏み込んだ提言にもっていけるかどうかということが、私たちの分科会の課題として見えてきたのではないかと。</p> <p>小学校単位で防犯のまちづくりをやっていくのがいいという事までは、共通の理解となった。それから特にそこでどういう冠をつけるのが良いとか、どういう組織を作っていくのかここはまだ検討しなくてはいけない、でも地区ごとに課題が違うことまでは共通の理解となった。</p> <p>最も重要なのは、実りある今まで以上に安心安全のまちづくり進めて行く上で、どういう風にそこに人が参加していける仕組みとか具体的な方法ですよ。</p> <p>それからこの方法を作っていく上では、意思がないのにどのように動機づけをしていくかですよ。動機をどのように作っていくのか、もっと言うてしまうと、これをやると得だぞと思わせる事ができるかどうかだと思うのです。やる必要がないからいやいやにどうしてもなってしまう訳で、そうじゃなくてこれをやった方が自分たちの地域で生きていく上では得だなとか、あるいは生活をみんなで送っていく上では、この方が楽に生活できると思わせることができるかどうかですよ。</p>

それはとても難しいことですが、それを可能性として引き出せるものを、私たちが提示できるかどうかというところに来ているのだと思います。

今回は具体的に小学校単位で何か仕組みを作っていく時に、どういう人たちに関わってもらうのか、あるいは関わってもらう方法論はどういうものがあるかというところに今回は検討したいと思います。

皆さんが今日お話頂いた実態についてお話しいただきながら、それを踏まえたうえで、少しでもやる気を起こしてもらえそうな取り組み、例えば子供さんがいる世帯ですと、子供が参加して楽しかった、そういう雰囲気を作っていくうえでの何か仕掛けというものを作れるかどうか。それは本来の防犯の活動とはつながりがないのかもしれないのですが、それを考えていく方法論としては、ベースとしての地域社会における人間関係というのを良好なものとして作っていくことが重要な事だということ、今日の認識だと思いますので、そのところに踏み込んで検討したいと思います。

本日はありがとうございました。

有井課長さんから一言お願いいたします。

有井委員

この分科会に参加させていただいて、どの団体がどんな活動を行っているかを知る機会が非常に重要だと実感しております。

奇しくもこの会議が行われている今日夕方 6 時から秋の地域安全運動の出発式があります。警察の防犯協会傘下のボランティア団体の方に集まっていただいて、警察署に市長さん県議さんと市議会議長さんをお招きして、その方々に手弁当で活動しているボランティアの方が、実際にどういう活動をしているのか見ていただく機会づくりということで、平田地区は平田のヨシズヤで車上狙い、空き巣、振り込め詐欺のチラシ配りの広報活動を実施。そちらの方には市長さんと海津警察署長が巡視に行きます。南濃地区では一号館で県議員に来ていただいて、南濃地区の地域安全を中心に防犯活動をします。それから海津地区は海津温泉ですね。それぞれの地区で防犯活動をやっている方は、それぞれの地区へ行って参加していただく。実際警察でお願いしている役の方ですけども、警察の中だけでも一緒に活動する機会がなかった人たちを一堂に会してやろうということです。警察とこの分科会の方向性がリンクしているなあと思いました。

事務局

今回は11月11日を予定しています。本日はありがとうございました。